

ボードゲームから里海を考える講座 開催しました！



- 日時 令和4年7月9日（土）10：00～12：00
- 会場 香川県社会福祉総合センター 6階研修室
- 講師 谷 益美 氏（株式会社ONDO代表取締役）
- 講師アシスタント はしぐち つよし 氏
横山 昌太郎 氏

7月9日（土）に、香川県社会福祉総合センターにて、「ボードゲームから里海を考える講座」を開催し、11名が受講しました。この講座は、里海について話し合いながら学ぶ里海ゲーム「SATO-UMI・1000」（サトウミ セン）を実際に体験しながら、理想の海について考えることを目的とし、開催しました。

はじめに、グループに分かれて自己紹介を行いました。自己紹介の中で、今回参加したきっかけや里海づくりについて知っていることや自身の活動を紹介し、グループの代表者が意見をまとめ、発表しました。



そして、講師より里海ゲーム「SATO-UMI・1000」についての説明がありました。「SATO-UMI・1000」は、カードに書かれた内容をきっかけに、参加者の体験談や意見を話し合い、「身近な里海づくり」について話し合いながら学ぶゲームです。



ルールの説明を聞いた後、実際に体験しました。最初は慎重にゲームを進めていましたが、プレイヤーが一巡するころにはゲームのルールを理解し、楽しんでいる様子でした。

その後、ゲームの振り返りを行いました。体験後の感想では、「1枚1枚が面白くて、次のカードにはどんな内容が書かれているのか興味があった」、「自分のことだけでなく、みんながどう思っているのかを予想するゲーム性が面白い」、「うっかりカードで自分の行動を振り返り、見直しにつながる」、「カードの内容から誰でも参加しやすい」等の意見がありました。



最後に、香川県の里海づくりの5つの課題として「有機汚濁」「栄養塩の問題」「藻場不足」「海ごみ問題」「海との関わりの希薄化」を挙げ、年々、海や海辺のレジャー活動などの機会が減り、海への興味関心がなくなっているというお話がありました。また、未来の里海づくりについて出来ることを考え、意見を出し合いました。「たくさんの魚が生息し、子どもが遊べる豊かな海を残すために、みんなが海ごみ拾い活動に参加し、その活動を多くの人に伝えていくことが必要である」という意見がありました。

講座終了後のアンケートでは、「ゲームを通して里海づくりにつなげられる」、「気軽に環境問題について話すことができて楽しかった」という声がありました。